

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第48週〔11月28日～12月4日〕

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

ノロウイルスの検出について

中央西福祉保健所管内の高齢者施設で、今冬シーズン初めてノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団感染が発生した。また、今週搬入された検体からも今冬シーズン初めてノロウイルスが検出された。定点からの感染性胃腸炎の報告数も増加が続いており、今後は注意が必要である。

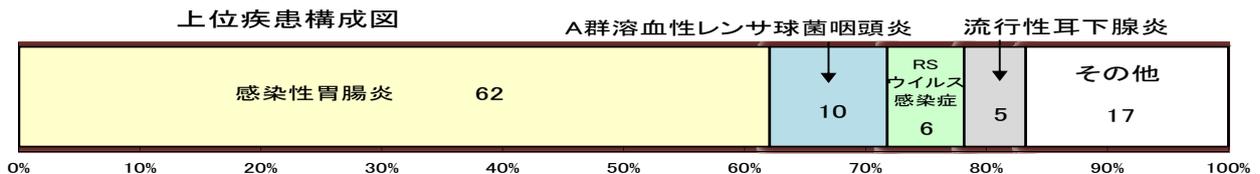
潜伏期は1～2日であると考えられている。嘔気、嘔吐、下痢が主症状で、ほとんどは軽症で回復するが、乳幼児や高齢者などは嘔吐、下痢による脱水や窒息には注意する必要がある。ウイルスは、発症後3週間程度はウイルスが便中に排出されるため、2次感染に注意が必要である。帰宅後の手洗い・うがい、食事前やトイレの後には必ず手を洗い、予防して欲しい。また、消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使用するか、85℃で1分以上の加熱が必要である。

県内情報

○ 患者情報総評

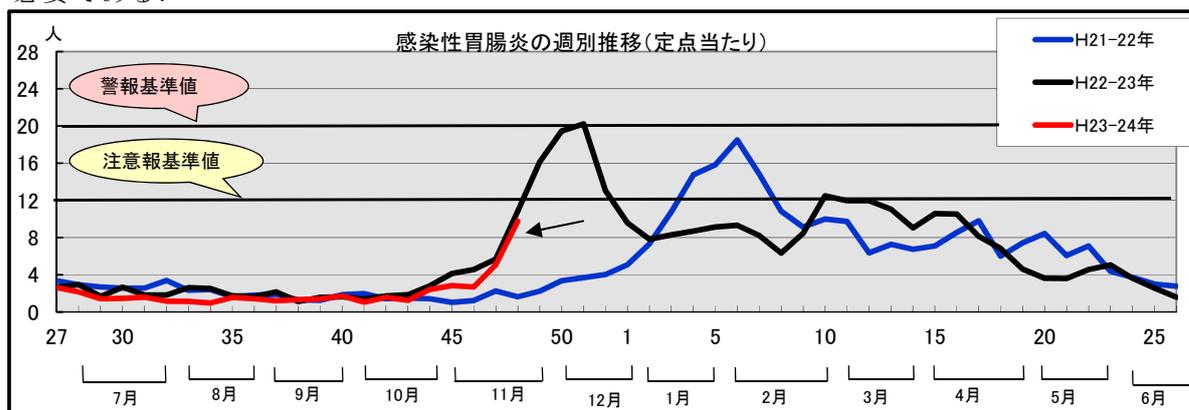
注意報発令疾患：なし

- 今週は日中20℃を越す日もあり過ごし易かったが、冬型疾患である感染性胃腸炎は急増が続いており、注意が必要である。
- 感染性胃腸炎(高知市：注意報、高幡：注意報)**は安芸と中央西を除く地域で増加し、総数は前週の約2倍に増加した。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(中央西：注意報、高知市：注意報、高幡：注意報→注意報)**は高幡を除く地域で増加し、総数は前週の約1.5倍増加した。今後の推移に注目される。
- RSウイルス感染症**は第43週に急増したがその後減少傾向となり、前週再び増加した。今週も引き続き増加しており、例年通りであれば、今後は流行のピークに向かって増加すると思われるので、注意が必要である。
- 流行性耳下腺炎(幡多：注意報→警報、中央西：注意報)**は幡多で大幅に増加し警報値を超した。また、中央西でも増加し注意報値を超した。総数はやや増加している。



感染性胃腸炎：今週 9.77 （注意報値：12.00 警報値：20.00）

総数は引き続き増加し、高知市と高幡では注意報値を超した。高知市と高幡から搬入された検体から、今冬シーズン初めてNorovirus GIIが検出され、今後も報告数の急増が続くと思われるので、注意が必要である。



インフルエンザ：今週 0.06 （注意報値：10.00 警報値：30.00）

前週に引き続き安芸で2例、高知市で1例報告され、迅速キットの結果は全てA型陽性であった。例年12月中旬から報告数が急増しており、今後の推移が注目される。

マイコプラズマ肺炎：今週 0.14 （注意報値：0.50 警報値：2.00）

報告数は減少したが、搬入された検体からは、*Mycoplasma pneumoniae* 4件が検出されており、今後も注意が必要である。

検査情報

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
48	急性気管支炎	1歳 男	高知市	Norovirus GII NT
48	感染性胃腸炎	2歳 女	高幡	Norovirus GII NT
48	感染性胃腸炎	1歳 男	高幡	Norovirus GII NT
48	感染性胃腸炎	1歳 女	高幡	Norovirus GII NT
48	感染性胃腸炎	2歳 女	高幡	Norovirus GII NT
48	百日咳	13歳 男	高幡	<i>Bordetella pertussis</i>
48	百日咳	2歳 女	高幡	<i>Bordetella pertussis</i>
48	マイコプラズマ肺炎	11歳 男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
48	百日咳	30歳 女	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
48	マイコプラズマ肺炎	5歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
48	マイコプラズマ肺炎	9歳 女	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
48	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7歳 男	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1

前週以前に搬入され検出された病原体

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況	備考
36	手足口病	1歳 女	高知市	Coxsackievirus A16	重複感染 (43週:Coxsackievirus A6)
43	手足口病	2歳 女	高幡	Coxsackievirus A16	
43	肝炎	2歳 男	高知市	Coxsackievirus B2	

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 1例（80代女）《須崎》（今年174例）

○ 定点からの地域ホット情報

幡多

《さたけ小児科》：マイコプラズマ感染症 2例（6, 9歳女）

須崎

《もりはた小児科》：アデノウイルス扁桃炎 2例（1歳男） マイコプラズマ肺炎 1例（5歳男）
百日咳 2例（2歳女, 13歳男）は第47週に追加

中央西

《石黒小児科》：マイコプラズマ肺炎 8例（9～15歳女, 32, 33歳女）
帯状疱疹 1例（65歳女）

《くぼたこどもクリニック》：感染性胃腸炎の1例（1歳女）はいの町, 1例（7歳男）は須崎市

《日高クリニック》：アデノウイルス扁桃炎 1例（2歳女）
マイコプラズマ気管支炎 2例（3,7歳女）

高知市：

《細木病院小児科》：感染性胃腸炎の1例（11ヵ月女）はノロウイルス陽性
EBウイルス感染症 1例（15歳男）
《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス感染症 1例（1歳女） 帯状疱疹 1例（5歳男）
マイコプラズマ肺炎 5例（1～10歳男女）
《近森病院内科》：インフルエンザの1例（40代男）はA型陽性、予防接種歴なし

中央東

《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（7歳男）
アデノウイルス咽頭炎 1例（1歳女）
《早明浦病院小児科》：マイコプラズマ肺炎 3例（2歳：2例，1歳） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増加
安芸
《県立安芸病院小児科》：インフルエンザの2例（3,9歳男）はA型陽性

全国情報第46週（11/14～11/20）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核400例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症54例（有症者29例、うちHUS 1例）

4類感染症：E型肝炎1例、チクングニア熱1例、つつが虫病25例、日本紅斑熱2例、ボツリヌス症1例、マラリア1例、レジオネラ症9例

5類感染症：アメーバ赤痢13例、ウイルス性肝炎（B型）1例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、後天性免疫不全症候群18例（AIDS 2例、無症候13例、その他3例）、ジアルジア症2例、梅毒16例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん2例、麻しん5例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、Q熱1例、日本紅斑熱3例、レジオネラ症2例、急性脳炎2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例

◆インフルエンザ

インフルエンザ（Influenza）は、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられている。インフルエンザは、典型的な発症例では1～4日間の潜伏期間を経て、突然に発熱（38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続く。通常は1週間前後の経過で軽快するが、いわゆる「かぜ」と比べて全身症状が強いのが特徴である。

主な感染経路はくしゃみ、咳、会話等で口から発する飛沫による飛沫感染であり、他に接触感染もあるといわれている。インフルエンザの感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生の徹底が重要であると考えられるが、たとえインフルエンザウイルスに感染しても、全く無症状の不顕性感染例や臨床的にはインフルエンザとは診断し難い軽症例が存在する。従って、特にヒト-ヒト間の距離が短く、濃厚な接触機会の多い学校、幼稚園、保育園等の小児の集団生活施設においてインフルエンザの集団発生をコントロールすることは困難であると思われる。2009年4月に新型インフルエンザの発生が明らかとなり、世界各国で大きな流行をもたらしたことは記憶に新しい。この新型インフルエンザも、2011年4月以降はインフルエンザ（H1N1）2009と呼ばれるようになり、他のA/H3N2（A香港）亜型やB型のインフルエンザと同様にヒト-ヒト間で流行する季節性インフルエンザ対策の中に組み込まれることとなった。

感染症発生動向調査では、全国約5,000カ所（小児科定点約3,000、内科定点約2,000）のインフルエンザ定点からの報告に基づいてインフルエンザの発生動向を分析している。インフルエンザの定点当たり報告数は、2011年第42週以降増加が続いており、第46週の定点当たり報告数は0.21（報告数1,012）となった。都道府県別では沖縄県（1.98）、宮城県（1.57）、愛知県（0.66）、徳島県（0.58）、岐阜県（0.57）、兵庫県（0.43）、三重県（0.40）、山口県（0.35）の順であり、35都府県で前週よりも増加が見られた。

2011年第36～46週に国内では93検体のインフルエンザウイルスの検出が報告されており、AH1pdm09が2件（2.2%）、AH3亜型（A香港型）72件（77.4%）、B型19件（20.4%）とこれまでのところAH3亜型が最多を占めているが、まだ検出報告数は少数であり、引き続き慎重な経過観察が必要であると思われる。

2009年の新型インフルエンザの流行を除くと、日本国内での季節性インフルエンザの流行は例年12月かまたは翌年の1月に全国的な流行が始まり、そのピークは1～3月のいずれかとなる場合が殆どである。今シーズン（2011/2012シーズン；2011年第36週～2012年第35週）も第42週以降はインフルエンザの報告数は継続的に増加してきており、例年と同様に12月中かまたは翌年の1月に全国的な流行となるものと予想される。インフルエンザの予防の基本はインフルエンザワクチンの接種である。同ワクチンの接種を必要としながらも、現時点ではまだ接種が実施されていない場合は速やかに接種することが望まれる。今後ともインフルエンザの発生動向には注意深い観察が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前 週	全国(47週)	高知県(48週未累計) H23/1/3~H23/12/4
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ	2		1				3 (0.06)	3 (0.06)	1,397 (0.29)	12,347 (257.23)
小児科	咽 頭 結 膜 熱		1					1 (0.03)	1 (0.03)	906 (0.29)	323 (10.77)
	A群溶血性レンサ球菌 咽 頭 炎	1	9	22	9	4	1	46 (1.53)	28 (0.93)	5,231 (1.67)	2,033 (67.77)
	感 染 性 胃 腸 炎	4	61	176	22	24	6	293 (9.77)	152 (5.07)	15,942 (5.09)	7,372 (245.73)
	水 痘		3	15	4			22 (0.73)	18 (0.60)	5,548 (1.77)	1,696 (56.53)
	手 足 口 病	5	3	4	1		3	16 (0.53)	17 (0.57)	2,558 (0.82)	3,306 (110.20)
	伝 染 性 紅 斑		1	7	1		6	15 (0.50)	15 (0.50)	657 (0.21)	517 (17.23)
	突 発 性 発 疹		5		3		2	10 (0.33)	12 (0.40)	1,717 (0.55)	682 (22.73)
	百 日 咳				1			1 (0.03)	3 (0.10)	81 (0.03)	45 (1.50)
	ヘルパンギーナ	1		2		1	2	6 (0.20)	9 (0.30)	192 (0.06)	962 (32.07)
	流行性耳下腺炎		1	4	3		16	24 (0.80)	20 (0.67)	2,062 (0.66)	486 (16.20)
	RSウイルス感染症		5	25				30 (1.00)	25 (0.83)	2,389 (0.76)	726 (24.20)
眼科	急性出血性結膜炎									181 (0.27)	1 (0.33)
	流行性角結膜炎			3				3 (1.00)	1 (0.33)	364 (0.54)	56 (18.67)
基幹	細菌性髄膜炎			1				1 (0.14)		8 (0.02)	7 (1.00)
	無菌性髄膜炎								1 (0.14)	37 (0.08)	24 (3.43)
	マイコプラズマ肺炎			1				1 (0.14)	5 (0.71)	579 (1.25)	128 (18.29)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									18 (0.04)	11 (1.57)
計 (小児科定点当たり人数)	13 (6.00)	89 (12.71)	261 (23.24)	44 (14.67)	29 (14.50)	36 (7.20)	472 (15.53)				
前 週 (小児科定点当たり人数)	16 (7.50)	51 (7.29)	161 (13.97)	33 (11.00)	20 (10.00)	29 (5.80)		310 (10.06)	39,867		30,722 (862.16)

定点当たり

第48週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前 週	全国(47週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ	0.50		0.06				0.06	0.06	0.29
小児科	咽 頭 結 膜 熱		0.14					0.03	0.03	0.29
	A群溶血性レンサ球菌 咽 頭 炎	0.50	1.29	2.00	3.00	2.00	0.20	1.53	0.93	1.67
	感 染 性 胃 腸 炎	2.00	8.71	16.00	7.33	12.00	1.20	9.77	5.07	5.09
	水 痘		0.43	1.36	1.33			0.73	0.60	1.77
	手 足 口 病	2.50	0.43	0.36	0.33		0.60	0.53	0.57	0.82
	伝 染 性 紅 斑		0.14	0.64	0.33		1.20	0.50	0.50	0.21
	突 発 性 発 疹		0.71		1.00		0.40	0.33	0.40	0.55
	百 日 咳				0.33			0.03	0.10	0.03
	ヘルパンギーナ	0.50		0.18		0.50	0.40	0.20	0.30	0.06
	流行性耳下腺炎		0.14	0.36	1.00		3.20	0.80	0.67	0.66
	RSウイルス感染症		0.71	2.27				1.00	0.83	0.76
眼科	急性出血性 結 膜 炎			3.00				1.00	0.33	0.54
	流行性角結膜炎			3.00				1.00	0.33	0.54
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.14		0.02
	無菌性髄膜炎							0.14	0.14	0.08
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.14	0.71	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.04
計 (小児科定点当たり人数)	6.00	12.71	23.24	14.67	14.50	7.20	15.53			
前 週 (小児科定点当たり人数)	7.50	7.29	13.97	11.00	10.00	5.80		10.06		

2011年週報推移(定点当たり)

